

児童の問題解決能力の育成に向けた実践研究

－算数科における主体的・対話的で深い学びを通して－

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（数学）

氏名 菱田 達哉

本研究における目指す子ども像を「興味・関心をもち、粘り強く取り組む学びができる児童」「互いの考えを遠慮なく聴き合い、理解を深めていく学びができる児童」「学んだ知識を活用・発揮しようとする学びができる児童」と設定した。仮説1は「児童の興味・関心がもてる導入をし、適切な教師支援をすれば、児童は主体的に学習に取り組むようになるであろう」として、それに対する手立てとして、学級力向上プロジェクトを行った。仮説2は「互いがわかるまで聴き合い、理解を深めていこうとする意識付けができれば、良い対話をするようになるであろう」として、それに対する手立てとしてモデリングとコーチングの声掛けや対話の価値付けを行った。仮説3は「学び獲得した知識を活用・発揮するプロセスは、学びを深めたものであると言えるであろう」として、それに対する手立てとして、パフォーマンス課題を行った。VWやランドルト環などの実践を通して、学んだことを活用して問題解決していく力（問題解決能力）を伸ばすことができた。